

明るく、前向き。お母さんの元気が特効薬

著者
インタビュー

「アトピーに克つネットワーク」

金丸弘美さん

アトピーの子どもを持つ姉の紹介で、ある小児科の先生に会ったのですが、その先生から「日本人の食生活は高度経済成長期を境に洋食化した。簡単にいえば、高カロリー、高タンパクの食事は体質に合わないから『いけない』と拒絶しているのがアトピーなんだ」と言われたんですね。

先生の話の話を聞いたとき、自然環境をテーマにしたテレビ番組で、ネズミの取材をしたことを思い出して、アトピーはネズミといっしょだなと思いました。つまり、ネズミも高度成長期に生態系が変わってしまい、今ではビルにすみついて、栄養過多・超肥満のネズミまで誕生している。その時期に、ネズミがすみやすい環境を人間がたくさんつくり出したんです。アトピーはネズミといっしょ



いっぽくの考えに、おもしろいと共感してくれたのが、この本の主役「アトピー地球の子ネットワーク」の赤城智美さんなんです。赤城さんたちの活動は、アトピーは環境問題というとらえ方をしている、現代社会の日常のゆがみがアトピーというかたちで警鐘を鳴らしているんだと考えているんですね。アトピーの要因は、食事の問題、農薬や添加物の問題、それに公害やストレスの問題と広範囲で、しかもそれぞれ分野が違い、要因が見えにくい。おまけに情報が氾濫しているものだから、みんな混乱しているんです。

赤城さん自身、アトピーの子どもを持ち、いろいろな問題にぶつかりながら、勉強会や映画会、電話相談室などを開き、消費者の立場から医療・食べ物・環境問題を考えるネットワークづくりを進めています。今は地域コミュニティがどんどんとぎれてきて、アトピーの問題を自分だけで抱え込んで孤立しているお母さんが多いです。アトピー以前の問題が渦巻いて、それが全部アトピー

のせいになっているようです。だから同じ価値観で集まれるネットワークはたいせつです。

長寿を全うするにはストレスがなくて、前向きで明るく生きることでありますが、アトピーもまったく同じ。やっぱりダメだとかマイナス思考になってしまうと、アトピーはどんどんひどくなってしまいます。お母さんは一人で悩まずに、自分の殻に閉じこもらないで一歩踏み



かなまる・ひろみ 一九五二年、佐賀県唐津市生まれ。雑誌、新聞にエッセイや映画・演劇評などを執筆する。制作に従事。著書に『ふるさと きらばんが走る』『えんや 写真集・唐津くんち』など

出すこと。お母さんの元気がアトピーを変えるのですから。

この本は、赤城さんたちがどういうドラマを経て電話相談室を始めるに至ったかの、お母さんたちの物語ですが、こんどはアトピーの子どもたちが自立していく、子どもたちのドラマを書こうと思っています。もちろん、いざれネズミの本も書くつもりですよ。

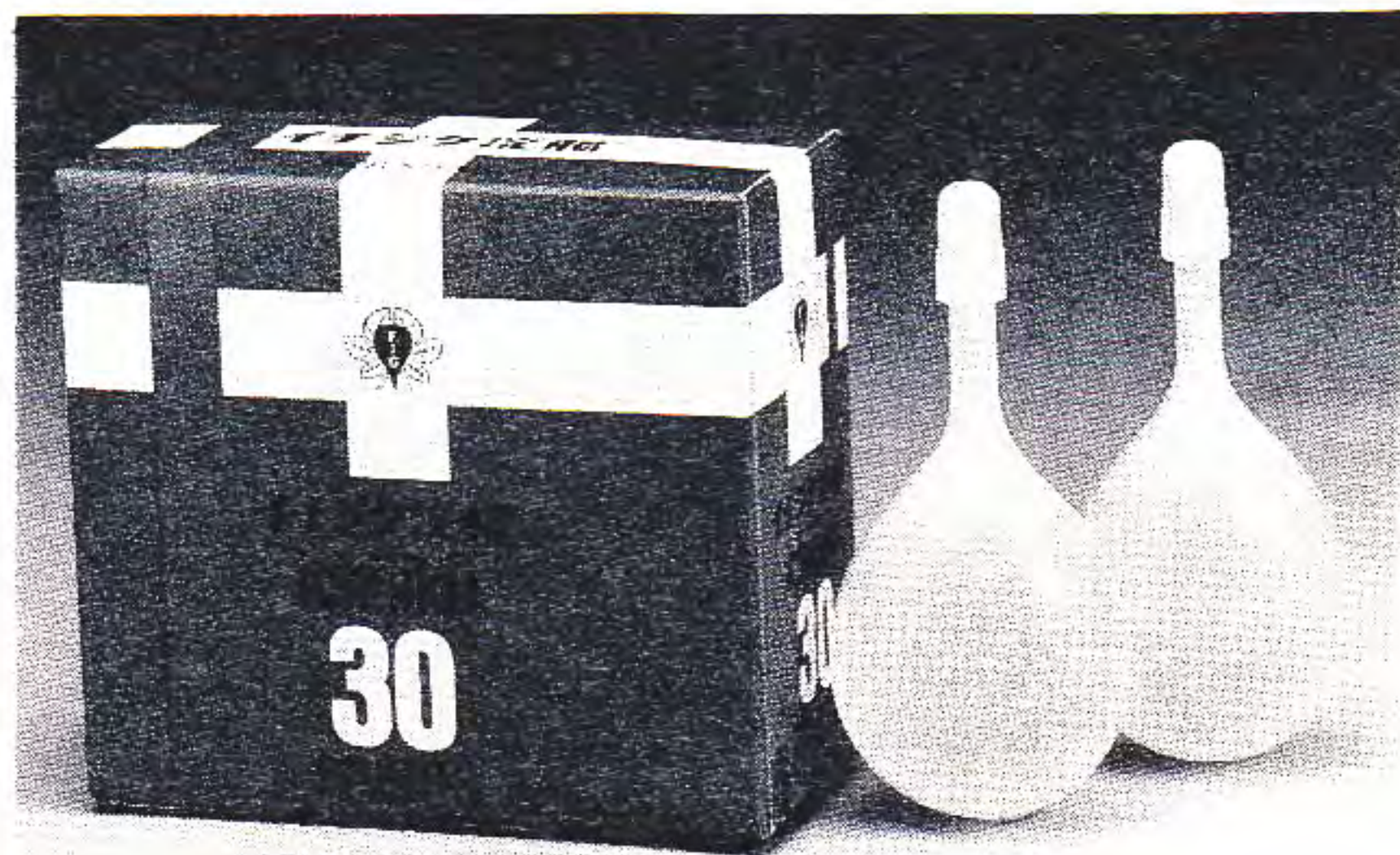
(廣済堂出版・一四〇〇円)

健康、さわやかに。

便秘でお悩みでしたら、「イチジク浣腸」をお役立てください。



●10g ●20g ●30g (各2個入)



●30g 5個入

○ご家庭の常備薬○

イチジク浣腸

東京・墨田 イチジク製薬株式会社